

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890200029
法人名	医療法人 仁明会
事業所名	グループホーム はとり
所在地	愛媛県今治市南宝来町3丁目4番地1
自己評価作成日	平成22年6月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年7月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームにいながら、季節が感じられるように、居間の壁面を飾っている。食事は、利用者ごとの嚥下状態に合わせてきめ細かな対応を行い、要介護5の状態になっても今までどおりトイレで排泄介助を行うなど介護度が進んでもホームで生活ができるように配慮している。又、次世代行動計画を策定し、職員の働きやすさにも重点を置いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接している母体病院のバックアップがあるため、医療的に安心感がある。しかし、「治療ではなくサポート」として医療的ケアを位置付け、利用者の生活支援に力を入れているホームである。施設長は、「ホームは共同生活であり、それには心配りが大切」と、利用者同士、利用者と職員などの相互を思い遣る気持ちをケアの基盤にしている。また、職員が元気づく環境を整えることで、利用者へのサービスも充実できると、介護・育児休暇制度等の整備にも積極的である。次世代育成計画を立て、職員研修も充実させていることは斬新的な取り組みである。「食事は自慢です」と職員たちは異口同音に言うが、頂いた昼食はその通りの満足できる献立である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム はとり

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏名 原文香

評価完了日 平成 22 年 6 月 28 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ご利用者が、ご自分の家庭で暮らすように、住み慣れた地域で、楽しく、健やかに、自分らしく暮らせるように願って、事業所の理念としている。玄関、各階の中央柱に運営理念を掲示して、運営理念を共有している。</p> <p>(外部評価) 理念を言葉だけで捉えず、家庭的とはどのようなことか、また、単に家庭的だけでなく専門的に生活を支えるとは等、施設長や職員も自問自答しながら、生活支援を実践すべく日々奮闘している。「病気も含めてその人の個性」という言葉に専門的な知識を基盤に利用者の生活を支えようとする意欲が感じられる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) グループホーム利用者も、地域のお祭りなどに参加し、地域の方も御神輿でホームを訪れてくれたり、子供御輿や「いのこさん」等の時には子供たちがきてくれている。又、散歩の途中で挨拶を交わしたり、親しい地域の方がホームにお花を届けてくださったりしている。</p> <p>(外部評価) 運営母体が地域医療に貢献している病院であるため、地域との付き合いには歴史がある。ホームの1階にあるデイサービスセンターや居宅介護支援事業所などと共同で催し物の開催やよろず相談などを行い、地域との交流を深めている。</p>	ホームには4階に広い会議室があり、地域との交流の場として有効活用することで、新たな付き合いも可能となる。他の事業所と協働することも重要であるが、ホーム独自の近隣者との付き合いも必要な時期と思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) ご近所の方が、訪問に来られ認知症やグループホームについての理解を深めている。また、介護実習生を受け入れ人材育成を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を定期的開催して、ホームのご利用者や職員のことなどを報告し、困り事などの相談、様々な意見をいただき運営に生かしている。	
			(外部評価) 施設長は地域住民の参加者を増やすことを年間計画に挙げ、デイサービスセンターの利用者をはじめ、自治会等へも積極的に働きかけている。また、運営推進会議での提案を受けて、警察署等の公共機関にも参加の声掛けを行い、運営推進会議の活性化には余念がない。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) わからないことや、疑問に思うこと、また、困難事例などを市役所高齢介護課に相談しながら運営をしている。	
			(外部評価) ホームが市役所に比較的近いところにあり、担当者への相談や連絡などは電話だけでなく、直接会うように心がけている。市担当者からアドバイスもらったことは早々に対応していることが、運営推進会議の議事録から理解でき、良好な関係を構築しようとしている姿勢が見られる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の鍵はかけず、身体拘束も虐待もしないケアに取り組んでいる。今年度、身体拘束・虐待防止委員会を立ち上げまえむきに取り組んでいる。	
			(外部評価) ホームでは身体拘束虐待防止委員会を立ち上げ、法的に規定されている事柄だけでなく、日常のケア業務の中身も検証している。委員会で話し合いを続け、自らのケアを見つめ直すことが身体拘束をしないケアの実践につながると、委員会を継続している姿勢は評価できる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティング時やケアカンファレンス時に、職員みんなで学んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護事業や日常生活自立支援事業について、研修に参加し、必要な高齢者や家族にはご利用を勧めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 本人家族とよく話し合う機会を持ち、契約を結んでいる。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や家族会、御家族の日常の訪問時に家族の御意見をいただき、運営や計画に反映している。また、ホームの各階入り口に御意見箱を置いて、御家族や訪問者の御意見を聞いている。	
			(外部評価) 家族等の面会時に、施設長や担当職員が積極的に声を掛け、意見に耳を傾けている。面会の少ない家族等には電話や手紙で話し合う機会を作っている。施設長や職員の傾聴する様子は心地よく、家族等にも気軽に話し合える雰囲気を作っていることが理解できる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月1回定例の管理者・職員ミーティングを行い、職員の意見を聞く機会を持ち、反映させている。</p> <p>(外部評価) 施設長はミーティング時以外に、日常的に職員一人ひとりに声を掛け、雑談を交えながらもそれぞれの思いや考えを聞き出すようにしている。利用者のモニタリングは担当職員制にすることで、ミーティングでの発言の場を作っていることも、意見を聞き出す仕組みの一つである。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 勤務希望表に記入することで、個々の職員の勤務希望を取り入れ、有給休暇も取りやすい環境を作っている。雇用環境を整備し、次世代育成支援対策に力を入れている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 職員の教育計画を作成し、個々の職員に必要な、内外の研修に参加できるように、又、働きながらステップアップができるように資格取得研修に職員を参加させている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム連絡協議会に加入して、研修や相互研修に参加し、同業者と交流する機会を作り、活動を通じて地域全体のサービスの質を向上させるべく、日々努力をしている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前や入居直後に本人、家族と話し合い、アセスメントを行って本人、家族の状況や希望を理解して、良い関係が保てるように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前、入居時に御家族と十分なコミュニケーションをとり、不安や要望をお聞きしている。何度も面談することで信頼関係がきづけるように努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービス利用前に、本人家族と面談を行い、グループホーム入居が本人家族にとって最良の支援であるかどうかを話し合う。これにより、引き続き在宅での介護を選ばれたご利用者もおられる。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご利用者のできることできないことを、アセスメントし、ご本人の状態に合わせてできることを行って頂き、ありがとうの言葉を返している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人のアセスメント後、御家族の協力して頂ける範囲で、御家族のご協力をお願いし、本人と家族の関係を断ち切らないよう、御家族と共に支援を行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 御家族、友人の面会を歓迎して、お茶でもてなし、本人との関係がとぎれないように、誰でも訪問しやすい環境や雰囲気作りを行っている。 (外部評価) 近隣の利用者が多いホームであるため、親族以外の面会者も多い。職員は利用者の友人や知人の関係性の理解に努め、利用者の記憶のサポートを行っている。また、ホームでの生活が長い利用者では、複雑な人間関係を整理することも必要となり、それをホーム全体で共有することにも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の日々の状況を把握して、良い関係が保てるように、職員がさりげなく利用者にかかわり、利用者同士で支え合えるような支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても、ご利用者御家族からの相談に応じて、必要に応じ支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者とのコミュニケーションをとり、本人の嗜好や希望を聞いて、できるだけ希望に添えるような介護に努めている。意思を伝えることが困難なご利用者には、本人本意で検討している。 (外部評価) ホームでは、利用者の希望や意向を把握するためには、日頃の会話の中から、好きな事、苦手な事などを確認することが重要としている。会話の方向が定まらない利用者の会話に職員は笑顔で丁寧に対応し聞き取っている姿があり、利用者本位のケアに勤めていることが理解できる。	利用者の生活暦は、職員間で共有するためにミーティングなどで話し合いがもたれている。しかし、記録は介護日誌に記載のみであるため、年数が経つと確認が難しくなる可能性が高い。貴重な資料であるため、いつでも確認できる記載の仕組みづくりが必要と思われる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族とのコミュニケーションをとり、一時にはなく徐々に生活歴やなじみの暮らし方を把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の一日のパターンやできることできないことを把握している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 計画作成時、ケアカンファレンスを行い、本人や御家族の意見屋希望を聞いて計画に反映している。 (外部評価) 介護計画はモニタリングを元に評価することで見直しを行っている。モニタリングは担当職員が行うが、評価などは職員全員で行っている。利用者の担当は定期的に交替することで、職員全員が利用者全体をモニタリングできるような配慮も行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録を作り、日々の様子や、計画の実践経過、結果、評価を行い、次の計画に反映している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時々、利用者や御家族の状態に合わせて、柔軟な対応を心がけている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ご本人を支えている、ご近所、隣組、友人、老人会など地域資源を把握し、協力して頂ける部分は協力して頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人、家族にかかりつけ医を確認し、希望の医療機関 を受診頂いている。又、協力医療機関とも密に連絡を 取り、利用者が適切な医療を受け健康が保てるよう に支援している。</p> <p>(外部評価) 隣接している母体病院の信頼が高く、利用者全員が かかりつけ医として要望している。往診が定期的に行 われており、医療的な相談も24時間いつでも対応可 能なシステムがある。また、歯科や皮膚科など専門医 にも連携が取れており、医療面では安心感が高いホー ムである。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) ユニット毎に看護師が常勤でおり、毎朝・夕の申し送 り時に本人の状態を報告・相談を行い適切な受診や看 護が受けられるように支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入退院時、入院病院と情報を交換して、早期退院受け 入れができるようにしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入所時より、本人の状態に合わせて、重度化や終末期 についての相談を行い、終末期の方や家族とは密に連 絡を取って支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 病院が運営母体である点から、医療との連携、看護 師を多く配置する等ターミナルに対しては十分な配慮 を行っている。利用者や家族等も病院を含めて法人全 体での支援を信頼しており、終の棲家として考えてい る人が多い。そのため、管理者は利用者の状態に応じ て、家族等との話し合いには力を入れている。</p>	<p>医療連携が整っており、職員に看護職が多いホーム であるため、ターミナルケアの体制は十分である。し かし、福祉職員が不安感から医療職へ依存している場 合が少なくない。管理者と職員の話し合いは持たれて いるので、今後は福祉職員間でのターミナルに向けて の積極的な話し合いを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時に備えて、救急マニュアルを作り、2～3年に1回職員に救急研修を受けさせている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防火訓練・避難訓練を年に2回行い緊急災害に備えて訓練している。 (外部評価) 防災訓練はホーム内だけでなく、1階にある事業所や隣接している病院と一体となって行っている。消防署からは「有事の場合は、火の元から離れている階段に避難すること。そうすれば直ぐに救助に来る。」と頼もしい言葉をもらっているが、利用者の状態を丁寧に説明しているからでこそその言葉と理解できる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人のパーソナリティに合わせて、本人のプライドを傷つけないように、言葉かけや対応をしている。 (外部評価) 利用者それぞれの個性に応じて声掛けをしているが、それ以上に職員の年齢幅が大きいことを有効に活用しての関わりが評価できる。若い職員は、孫や子どもが関わるように、キャリアのある職員は、友人が話しかけるような雰囲気醸し出すなど、利用者が心地よく過ごせるような対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で、何度も本人の希望や意思を確認し、自己決定できるように介護を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できるだけ、本人のペースに添った介護を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服やアクセサリなどその人らしいおしゃれができるように、支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みに気を配りながら、利用者と一緒に準備・片付けを行っている。 (外部評価) 「食事は自慢なんです」ということがメニューのバリエーションの多さから理解できる。食材を職員が紹介しながらの賑やかな食卓である。刻み食やペースト食にも病院と連携しながら対応している。利用者の状態に応じて、下拵えや後片付けの役割を依頼しており、職員と協働して行っており和やかな雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の利用者に合わせた、栄養摂取や栄養バランスに気を配り、脱水にならないように水分補給を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、本人の力量に合わせて、口腔ケアの援助を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者全員がトイレにて排泄ができるように、排泄チェックを行い、計画を作成して排泄が自立できるように援助を行っている。	
			(外部評価) 利用者のレベルに合わせて排泄管理が行われている。自立度の高い人には、目くばせや声かけが行われており、排泄チェック表での管理が必要な人には、適切な時間に誘導や介護が行われている。おむつ使用者には適合性に配慮し、より快適なものをと適宜変更する取り組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 利用者ごとに排泄チェックを行い、排便確認を行って、スムーズな排便があるように、繊維の多い食物などで工夫して自力で排泄があるように務めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) できるだけ自宅での入浴時間に近い時間に、入浴を行っている。利用者の希望に合わせて長い時間をかけて入浴を楽しまれる方もいる。	
			(外部評価) 昨年度から入浴時間を午後いっぱい時間を使って、利用者により楽しんでもらえるようにと職員のシフトに工夫を行った。その結果、入浴を嫌がることなくなくなったという成果を出している。利用者主体でケアを行っている姿勢は評価できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 時間で縛らず、その日その日の利用者の状況に合わせて、日常生活を支えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬ノートを作り服用支援を行っている。看護師が常勤しており、服薬支援、服薬指導、症状の変化の把握を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) できる方は、役割を持ってもらい、買い物など手伝ってもらっている。嗜好品や楽しみごとは各個人に合わせて支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 声かけを行い、散歩に出られるように務めている。また、お出かけ希望があれば、車で外出したり家族の協力も得て外出したりしている。	
			(外部評価) 外気浴の有効性を理解しており、少しでも外出するように努めている。ホームの周辺は閑静な住宅街であるため、車の往来が少ないことも気軽に外出できる大きな要因になっている。雨の日でも1階のデイサービスセンターに顔を出すこともでき、利用者の気分転換が気軽に図れるホームである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金は、できるだけ本人に管理してもらっている。又、金銭管理が難しいかたでも、本人の強い希望がある場合は、家族とお話しして、本人が管理できる範囲のお金を所持してもらっている。職員は、買い物援助時に利用者が払えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時に電話がかけられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室も共用スペースも居心地の良いように、配慮して介護を行っている。	
			(外部評価) コンパクトであるが、機能的に考えられた共用スペースを囲むように居室が配されているので、利用者には使い勝手が良い。気配が感じられる距離に和室が設えられているので、利用者が一人になりたい場合には有効に活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居室以外に、一人になりたいときなどに利用できる、畳の間を用意している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は利用者それぞれに、本人の好みの物や、使い慣れた物、個性にあふれた物を持ち込み、本人が自宅と変わらない生活ができるように支援している。	
			(外部評価) どの居室の窓も大きくデザインされており近隣の庭を借景できる。利用者の好みの飾り付けや家具の配置で、個性豊かな居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890200029
法人名	医療法人 仁明会
事業所名	グループホーム はとり
所在地	愛媛県今治市南宝来町3丁目4番地1
自己評価作成日	平成22年6月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年7月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念をもとに、利用者、職員が楽しく生活できている。身体の健康管理にも気を付け、以上の早期発見に努め快適な毎日を送ることができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接している母体病院のバックアップがあるため、医療的に安心感がある。しかし、「治療ではなくサポート」として医療的ケアを位置付け、利用者の生活支援に力を入れているホームである。施設長は、「ホームは共同生活であり、それには心配りが大切」と、利用者同士、利用者職員との相互を思い遣る気持ちをケアの基盤にしている。また、職員が元氣よく働く環境を整えることで、利用者へのサービスも充実できると、介護・育児休暇制度等の整備にも積極的である。次世代育成計画を立て、職員研修も充実させていることは斬新的な取り組みである。「食事は自慢です」と職員たちは異口同音に言うが、頂いた昼食はその通りの満足できる献立である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム はとり

(ユニット名) 3階

記入者(管理者)
氏名 原文香

評価完了日 平成 22 年 6 月 28 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 毎日の食事作りの目の前によく見える場所にはり、理念のもとに行動、言動できるように実践に努めている。</p> <p>(外部評価) 理念を言葉だけで捉えず、家庭的とはどのようなことか、また、単に家庭的だけでなく専門的に生活を支えるとは等、施設長や職員も自問自答しながら、生活支援を実践すべく日々奮闘している。「病気も含めてその人の個性」という言葉に専門的な知識を基盤に利用者の生活を支えようとする意欲が感じられる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の文化祭、お祭り、盆踊りなどにできるだけ参加するようにしている。</p> <p>(外部評価) 運営母体が地域医療に貢献している病院であるため、地域との付き合いには歴史がある。ホームの1階にあるデイサービスセンターや居宅介護支援事業所などと共同で催し物の開催やよろず相談などを行い、地域との交流を深めている。</p>	ホームには4階に広い会議室があり、地域との交流の場として有効活用することで、新たな付き合いも可能となる。他の事業所と協働することも大事であるが、ホーム独自の近隣者との付き合いも必要な時期と思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の研修に関わりながら、認知症介護の啓発に努めている。又、人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、利用者の状況やサービスの実際を報告し、話し合った意見を、サービス向上に生かしている。	
			(外部評価) 施設長は地域住民の参加者を増やすことを年間計画に挙げ、デイサービスセンターの利用者をはじめ、自治会等へも積極的に働きかけている。また、運営推進会議での提案を受けて、警察署等の公共機関にも参加の声掛けを行い、運営推進会議の活性化には余念がない。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 事業所は、不明なことは運営推進会議以外にも、市役所の方に相談して、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
			(外部評価) ホームが市役所に比較的近いところにあり、担当者への相談や連絡などは電話だけでなく、直接会うように心がけている。市担当者からアドバイスをもらったことは早々に対応していることが、運営推進会議の議事録から理解でき、良好な関係を構築しようとしている姿勢が見られる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者が外出しそうな様子を見せたら、声をかけたり一緒に外出して安全に配慮している。日中は玄関の鍵は全くかけず自由に過ごして頂いている。	
			(外部評価) ホームでは身体拘束虐待防止委員会を立ち上げ、法的に規定されている事柄だけでなく、日常のケア業務の中身も検証している。委員会で話し合いを続け、自らのケアを見つめ直すことが身体拘束をしないケアの実践につながると、委員会を継続している姿勢は評価できる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者や職員は虐待の危険を早期に見つけられるように、カンファレンス時に話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度、地域福祉権利擁護事業を理解し、対応が必要と思われる利用者には、パンフレットを用意して、利用者の関係者に説明し、民生委員、社会福祉協議会に連絡・相談している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所等の契約時、家族、本人に説明を十分に行い、納得され入所されている。入所後の体調変化による生活の維持の可否についても説明を行い納得していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営に関する利用者、家族の意見を聞くため意見箱を設置し、要望、意見を受けつけ、それに対して運営に反映させている。 (外部評価) 家族等の面会時に、施設長や担当職員が積極的に声を掛け、意見に耳を傾けている。面会の少ない家族等には電話や手紙で話し合う機会を作っている。施設長や職員の傾聴する様子は心地よく、家族等にも気軽に話し合える雰囲気を作っていることが理解できる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月1回職員ミーティングを行い、意見を聞き運営に反映させている。職員の希望する勤務態勢に務めている。</p> <p>(外部評価) 施設長はミーティング時以外に、日常的に職員一人ひとりに声を掛け、雑談を交えながらもそれぞれの思いや考えを聞き出すようにしている。利用者のモニタリングは担当職員制にすることで、ミーティングでの発言の場を作っていることも、意見を聞き出す仕組みの一つである。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 介護職員処遇改善交付金を取り入れ、職員の職場環境、条件の整備に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 管理者や職員育成のための研修計画を作成し、法人内外の研修を受けることができるよう配慮している。又、院内研修も定期的実施し、職員全員の質の向上に取り組んでいる。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 相互評価事業に毎年参加し、他施設の良いところを取り入れサービス向上に努めている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入所時に、本人、家族の希望要望を聞き、そのことを取り入れたサービス計画を作り、又、職員による観察にて必要な介護を見極めて、本人の安心を確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に、本人、家族の希望要望を聞き、そのことを取り入れたサービス計画を作り、又、職員による観察にて必要な介護を見極めて、本人の安心を確保している。入所時より家族、本人とコミュニケーションを十分にとり関係作りに務めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) まず、短期計画を作成し、その時に必要な支援を見極め実施している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 食事を共にしたりゲームを共に楽しむ等楽しい生活が送れるように支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、日常の生活をお伝えしたり、必要物品をお願いしたり、季節ごとの衣類、寝具の入れ替えをお願いして本人に関わって頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の会いたい人に会えるよう、名前などが出た人は家族に連絡してあえるように支援している。面会に来られた際は自室にてゆっくり会話し、お茶をいただいている。 (外部評価) 近隣の利用者が多いホームであるため、親族以外の面会者も多い。職員は利用者の友人や知人の関係性の理解に努め、利用者の記憶のサポートを行っている。また、ホームでの生活が長い利用者では、複雑な人間関係を整理することも必要となり、それをホーム全体で共有することにも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者間の相性を見極めトラブルのない生活ができるよう、職員で配慮して一人で孤立しないよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用終了後も、御家族への相談助言などできることを行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) どのような場面でも本人に声かけを行い、本人に選択、決定をしていただいている。 (外部評価) ホームでは、利用者の希望や意向を把握するためには、日頃の会話の中から、好きな事、苦手な事などを確認することが重要としている。会話の方向が定まらない利用者の会話に職員は笑顔で丁寧に対応し聞き取っている姿があり、利用者本位のケアに勤めていることが理解できる。	利用者の生活暦は、職員間で共有するためにミーティングなどで話し合いがもたれている。しかし、記録は介護日誌に記載のみであるため、年数が経つと確認が難しくなる可能性が高い。貴重な資料であるため、いつでも確認できる記載の仕組みづくりが必要と思われる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前のケアマネージャーや家族、本人の暮らし方や趣味などを聞き取り経過の把握を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 各利用者ごとに担当の介護者を決め、本人の一日の過ごし方、心身状態、有する能力の現状を把握し、一日2回の申し送り時、変化の有無、現状を申し送り職員全員で把握している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 各担当の介護者を決め、ケアマネージャーや他の介護者とも相談しながら介護計画を立て、家族訪問時に家族からの意見、希望を聞き本人確認を行って介護計画を作成している。 (外部評価) 介護計画はモニタリングを元に評価することで見直しを行っている。モニタリングは担当職員が行うが、評価などは職員全員で行っている。利用者の担当は定期的に交替することで、職員全員が利用者全体をモニタリングできるような配慮も行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 各利用者ごとの日常生活を記録し、毎朝の申し送り時にミニカンファレンスを行い、情報を共有して実践し、介護計画に生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ニーズの変化に対しては、臨機応変に対応できる柔軟な支援・サービスのできる介護に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 必要時は、連絡を取り、各機関から訪問して頂き、協力しながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 隣接の主治医から月2回の往診や、身体の変化に対 してはその都度受診して体調管理を支援している。</p> <p>(外部評価) 隣接している母体病院の信頼が高く、利用者全員が かかりつけ医として要望している。往診が定期的に行 われており、医療的な相談も24時間いつでも対応可 能なシステムがある。また、歯科や皮膚科など専門医 にも連携が取れており、医療面では安心感が高いホー ムである。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 各ユニットに看護職員がいるので、毎日の申し送り時 体調の変化を看護師に連絡報告し、看護師の判断の元 受診を行っている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 隣接の医療機関と連携しており、できるだけ早期に退 院できるよう協働している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 治療の必要な状態ではない限り、ホームで過ごせるよ う、家族と相談しながら支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 病院が運営母体である点から、医療との連携、看護 師を多く配置する等ターミナルに対しては十分な配慮 を行っている。利用者や家族等も病院を含めて法人全 体での支援を信頼しており、終の棲家として考えてい る人が多い。そのため、管理者は利用者の状態に応じ て、家族等との話し合いには力を入れている。</p>	<p>医療連携が整っており、職員に看護職が多いホーム であるため、ターミナルケアの体制は十分である。し かし、福祉職員が不安感から医療職へ依存している場 合が少なくない。管理者と職員の話し合いは持たれて いるので、今後は福祉職員間でのターミナルに向けて の積極的な話し合いを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 東予地区研修や院内研修で救急処置法を職員で学び、急変や事故発生に備えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回防火訓練を行っている。1回は夜間想定し職員が身につけると共に、利用者にも避難訓練を行って頂き、災害に備えている。 (外部評価) 防災訓練はホーム内だけでなく、1階にある事業所や隣接している病院と一体となって行っている。消防署からは「有事の場合は、火の元から離れている階段に避難すること。そうすれば直ぐに救助に来る。」と頼もしい言葉をもらっているが、利用者の状態を丁寧に説明しているからでこそその言葉と理解できる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 各利用者のレベルにあった会話を心がけ、誇りプライバシーを損ねない、人格を尊重した言葉かけや対応をしている。 (外部評価) 利用者それぞれの個性に応じて声掛けをしているが、それ以上に職員の年齢幅が大きいことを有効に活用しての関わりが評価できる。若い職員は、孫や子どもが関わるように、キャリアのある職員は、友人が話しかけるような雰囲気を出し出すなど、利用者が心地よく過ごせるような対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃の会話の中から、思いや希望をくみ取りつつ、本人が表出できるよう働きかけ自己決定して頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 毎日、本人の希望を聞きながら介護をおこなっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎日本人の希望と職員の助言のもと、その人らしいみだしなみ、おしゃれができるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日の献立を利用者の希望を聞きながら、作成したり、調理の下ごしらえを手伝っていただいたり、利用者、職員共に食事を楽しんで生活できている。 (外部評価) 「食事は自慢なんです」ということがメニューのバラエティの多さから理解できる。食材を職員が紹介しながらの賑やかな食卓である。刻み食やペースト食にも病院と連携しながら対応している。利用者の状態に応じて、下拵えや後片付けの役割を依頼しており、職員と協働して行っており和やかな雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食事後のお茶や、10時3時のおやつ時に水分補給を行い、水分摂取量を確保している。食事は毎食チェック（摂取量）して、異常の早期発見に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きの声かけ誘導を行い、清潔に務めている。又、歯科医と連携を取り歯石除去や虫歯治療の訪問診療も支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を利用して本人の排泄パターンを把握し、おむつへの失禁が少なくなるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者のレベルに合わせて排泄管理が行われている。自立度の高い人には、目くばせや声かけが行われており、排泄チェック表での管理が必要な人には、適切な時間に誘導や介護が行われている。おむつ使用者には適合性に配慮し、より快適なものと適宜変更する取り組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表を利用して排便状態を把握し、散歩、水分補給、食材の工夫を行っている。又、腹圧をかけられない利用者に対しては、看護師による浣腸で対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回の入浴日に本人の希望を聞きながら入浴を支援しており入浴日の拒否があれば、翌日に入れるよう自由に選んでもらっている。夏季は、希望ある人は毎日入浴するよう支援している。	
			(外部評価) 昨年度から入浴時間を午後いっぱい時間を使って、利用者にゆっくり楽しんでもらえるようにと職員のシフトに工夫を行った。その結果、入浴を嫌がることなくなったという成果を出している。利用者主体でケアを行っている姿勢は評価できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 各利用者ごとに個室なので、本人の自由な時間に寝起きしている。又、疲れがあればお昼寝も自由できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の目的、副作用、用法、用量法の理解はできない人がほとんどで、看護師の支援にて服薬と症状観察を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 各利用者の残存能力を生かし、できることを行ってもらっている。又、毎日のレクリエーションで手足を動かしたり、頭の運動など楽しく過ごす時間を設けている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日近所の散歩に誘っている。又、季節にあった梅見、水仙見学など利用者の希望の場所に、ドライブ外出をしている。	
			(外部評価) 外気浴の有効性を理解しており、少しでも外出するように努めている。ホームの周辺は閑静な住宅街であるため、車の往来が少ないことも気軽に外出できる大きな要因になっている。雨の日でも1階のデイサービスセンターに顔を出すこともでき、利用者の気分転換が気軽に図れるホームである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物に行けるレベルの人は家族より少額を預かり、職員と共に外出支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) かかってきた電話の取り次ぎや、本人の希望があれば、電話をかけるなどの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に応じた壁面への装飾を心がけ、利用者に季節を感じて頂いている。又、空調機利用で快適な環境作りに心がけている。	
			(外部評価) コンパクトであるが、機能的に考えられた共用スペースを囲むように居室が配されているので、利用者には使い勝手が良い。気配が感じられる距離に和室が設えられているので、利用者が一人になりたい場合には有効に活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 本人の好みの場所を把握し、周囲に気の合わない人がいないか配慮しつつ過ごして頂いている。仲の良い利用者が、話し合いのできる居場所を確保している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時、今まで使用していた家具を持ち込んだり、仏壇、テレビなど自由に持参し居心地の良い空間を確保している。	
			(外部評価) どの居室の窓も大きくデザインされており近隣の庭を借景できる。利用者の好みの飾り付けや家具の配置で、個性豊かな居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物自体がバリアフリーとなっており、安全確保できている。又、利用者のレベルに応じた見まもり、移動介助で支援している。	